

会 議 録

会 議 の 名 称	令和2年度第1回あま市防災会議
開 催 日 時	令和2年12月23日(木) 午後2時から午後3時まで
開 催 場 所	あま市役所本庁舎2階 大ホール
議 題	あま市国土強靱化地域計画(素案)について
会 議 資 料	あま市防災会議次第 あま市国土強靱化地域計画【概要版】 あま市国土強靱化地域計画(案)
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍 聴 人 の 数 (公開した場合)	0人
出 席 委 員	村上浩司、早川安広、松永裕和、佐々木 晃、斎藤康仁、水野伸夫、河竹正幸、後藤幸正、内田康史、片岡博喜、新美君栄、富田悦充、渡邊 剛、井村なを子、武藤雪江、川田秀文、恒川卓矢、青木 啓、新井伸夫、堀江慎也、早船善恵
欠 席 委 員	津坂英司、服部章平、神谷浩一、加藤宏治
事 務 局	(総務部) 牛田部長 (安全安心課) 徳永課長、鈴木主幹、原野課長補佐、藤原主事、中村防災専門員

会議録（要旨）

- 1 会長あいさつ
- 2 委員の委嘱について
- 3 あま市国土強靱化地域計画（素案）について

●事務局

あま市国土強靱化地域計画（素案）の修正要旨を説明

【質疑応答】

○委員

素案の2ページに「自立・分散・協調」型の国土構造の実現に向けた取り組みとあるが具体的な内容は。

●事務局

「自立・分散・協調」型の国土構造とは、大規模災害において、早い復旧復興を図るために、それぞれの組織が自立的に活動するとともに連携して災害に対応する体制のこと。

○委員

強靱化の担い手は市民一人ひとりであるという視点に立ち、学校等を通じ継続的な防災教育の取り組みを進めるとあるが、具体的な取り組み範囲を教えてください。

●事務局

市内の児童を対象として、地震体験車による地震を体験していただくことや、防災講座を受講していただくことを想定している。

○委員

私たち防災ネットにおいて、本年度は秋竹小学校と宝小学校の児童を対象に防災講座を実施した。

○委員

素案の13ページに「市の職員・施設等の被災による行政機能の大幅な低下」とあるが、どこまで想定しているのか。

●事務局

職員が被災し、出勤できないことを指している。その際、協定に基づき他の自治体から職員の応援を受け入れることが想定されるが、既に作成されている受援計画を活用して対応していきたい。

○委員

災害時に医療救護所について、具体的に決めているか。

●事務局

美和保健センターを検討している。

○委員

以前からお話しているが、医師会から具体的な話し合いがあったと聞いていない。行政が主導で医師会との話し合いを持っていただき、医療救護所を立ち上げる際に必要な薬剤や物資、スタッフなどについて具体的に計画するべき。

●会長

あま市全体で取りくんでいきたいと思う。

○委員

建物の耐震化率を95%へ押し上げるための方法として、職員が率先して耐震改修を実施するなど、市民へ熱を伝えてほしい。また、南海トラフ巨大地震が発生すると広域的に被災することが想定されるため、近隣市町村と調整していただき、実効性のある計画にしていきたい。

○委員

地震により水道管が破裂した場合、市内で事業を営んでいる方々がこの地域から出ていかざるを得ない状況も想定される。地元企業の方々の意見を参考にしていきたい。また、自家発電装置の燃料にA重油を使用していることがあるが、需要が少ないためガソリンスタンドから入手困難の恐れがある。具体的な入手方法を検討していただきたい。災害が発生した際は、安全安心課の職員だけではなく、全庁的に対応することになるため、職員の意識向上についても図ってほしい。

●事務局

あま市が抱えている脆弱な部分を把握し、具体的に進めていく。

○委員

災害発生時における、あま市民病院の役割として、具体的にどの部分の医療を担当するのかを詰めていただきたい。